

山に囲まれた東本梅町大内地区には「暴れ人坊將軍」などの人気時代劇のロケ地として登場するスポットが点在する。樹齡千年以上と伝わる大スギが境内にそびえる大内神社、古びたほころの大日堂など昔のままの風景が残る。時代劇全盛の頃は、地区一帯が「大内撮影所」と呼ばれたという。

「大内」の由来は定かではないが、この地域が天皇家にゆかりのある土地との伝承がある。同神社近くに住む80代の男性は「平安時代、病氣だった当時の天皇が山腹にある楽音寺を訪れて治癒を祈願

おうち

大内

(亀岡市)

し、全快した。その縁で天皇家に名残のある地名がこの付近に残っているそうだ」と話す。



さらに聞くと、大内大内村だったが、明治中期に東本梅村に編入前町神前の「神」、同された。周辺の山には町宮川の「宮」の3文字天然砥石に適した層が字を合わせて「大神宮」あり、昭和30年代までと読める。この男性は集落50戸のうち30戸「病氣が治ったお札にほとんどが砥石採掘に従事宮家に関わる文字を地していたという。今で元にくれたのか、そのは1戸だけと時代は移縁で地元が名付けたのか」と推測する。風景は変わらない。

江戸時代まで船井郡

(小池直弘)

天皇の病氣平癒に縁？



樹齡千年以上の大スギが境内にそびえる大内神社(亀岡市東本梅町大内)

ふる里の

呼びび名